

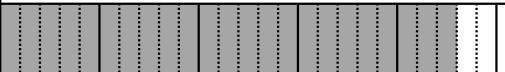
### 施策評価調書(2年度実績)

				施策コード Ⅲ-1-(6)		
政策体系	施策名	青少年の健全育成	所管部局名	生活環境部		
	政策名	生涯にわたる力と意欲を高める「教育県大分」の創造	関係部局名	生活環境部、教育庁、警察本部		
					長期総合計画頁 133	

#### 【Ⅰ. 主な取り組み】

取組No.	①	②	③	④	⑤
取組項目	家庭、学校、地域全体で青少年を育む環境づくり	豊かな心を育む体験活動や読書活動の推進	困難を抱える青少年や家族への支援の充実	少年非行防止対策や支援活動の推進	福祉犯の取締りと被害少年に対する保護活動の推進

#### 【Ⅱ. 目標指標】

指標	関連する取組No.	基準値		2年度			6年度	目標達成度(%)				
		年度	基準値	目標値	実績値	達成度	目標値	25	50	75	100	125
i 子ども・若者総合相談センター／ひきこもり地域支援センターにおける相談件数(件)	③	H26	1,054	2,000	2,286	114.3%	2,000					

#### 【Ⅲ. 指標による評価】

評価	理由等	平均評価
i 達成	R2年度に「訪問支援員」や「市町村支援員」を増員し、アウトリーチ型支援や市町村相談窓口への後方支援等の拡充を行った。コロナ禍で来所相談や訪問が控えられる中、全体の相談件数(実績値)は減少したが、電話による相談件数が増加したため、目標値を達成した。	達成

#### 【IV. 指標以外の観点からの評価】

取組 No.	指標以外の観点からの評価
①	・情報モラルセミナー(参加者139名)及びネットトラブル・情報モラル出前授業(参加者5,273名)により、児童生徒、保護者、教職員へネットトラブルにあわないための基礎知識の習得や情報モラルの向上を図った。 ・地域において子どもの見守りや家庭の見守りなど子どもの育ちを支える支援の輪が広がり、地域教育力が向上した。
②	・各地域で読書の楽しさを広める「子ども司書」を養成(5市、36名)するとともに、中高生によるビブリオバトル大会(中学生19名、高校生27名参加)を開催し、読書の楽しさを発信する子どもを育成した。 ・代替の研修として陸上で実施した「少年の船の家」では、小学生が学校や家庭では体験できない活動や交流を通じて、社会性を身につけることができた。
③	・地域児童生徒支援コーディネーター、教育相談コーディネーター、スクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカー等の連携により、教育相談体制が強化された。 ・県教育センター「ポランの広場」に教育相談アドバイザーを配置することにより、不登校児童生徒及び保護者に対するアウトリーチ型訪問支援や来所・電話相談対応を行った。 ・ICTを活用した家庭学習支援を50名の不登校児童生徒へ実施した。
④	・スクールサポーターの定期的な訪問により、学校と警察との情報共有の役割を担うとともに、非行防止教室の実施(55回)、校内外パトロールの実施(10,988回)など、児童の非行防止及び安全確保に努めた。 ・サポートを求める少年には、大分っ子フレンドリーサポートセンターが中心となって少年警察ボランティアと連携し立ち直り支援を推進した。
⑤	・児童ポルノ事犯など少年の福祉を害する犯罪の検挙活動を推進し、被害少年の保護に当たったほか、児童虐待事案に対しては関係機関と連携し、児童の安全確保を第一とした対応を徹底した。

#### 【V. 施策を構成する主要事業】

取組 No.	事業名(2年度事業)	事務事業評価	
		成果指標の達成率(%)	掲載頁
①	ネット安全教育推進事業	83.1	328
	学校・家庭・地域による「学びの未来」創造事業	96.4	333
②	読書だいすき大分っ子育成事業	74.2	294
	大分県少年の船運航事業	101.7	328
	豊かな体験活動推進事業	50.0	328
③	いじめ・不登校等解決支援事業	95.9(R1)	310
	スクールソーシャルワーカー活用不登校等対策事業	110.0	310
	不登校児童生徒教育支援事業	—	311
	青少年等自立支援対策推進事業	114.3	329
④⑤	地域防犯力強化育成事業	102.6	86

#### 【VI. 施策に対する意見・提言】

○「安心・活力・発展プラン2015」中間見直し委員会(R1.5)  
・ひきこもり対応のあり方の検討を進める必要がある。

○「安心・活力・発展プラン2015」中間見直し委員会(R1.6)  
・子どもの頃の多様な実体験が重要。

#### 【VII. 総合評価と今後の施策展開について】

総合評価	施策展開の具体的内容
A	・ネットトラブル相談窓口を年度の早期に開設し、安全利用の指導などができる人材の育成を目的とした情報モラルセミナーや出前授業を引き続き実施する。 ・学年段階が進むにつれ読書好きな児童生徒が減少していることから、幼児向け図書の展示や読み聞かせ等の実演を商業施設等で行い、家庭における読書活動を推進し、小学校修学前段階から主体的な読書習慣の形成を促進する。 ・ひきこもり支援センターに各種専門家で構成される「多職種専門チーム」を設置し、ケース会議での助言等を映しながら支援体制の充実を推進する。また市町村の担当職員を対象とした研修を行うことにより、対応力強化を図るとともに、関係機関の連携による地域密着型の支援につなげる。 ・スクールサポーター制度のさらなる充実を図り、学校内で発生するいじめや暴力事案といった諸問題への指導・助言などの解決に向けた取り組みを強化する。 ・少年警察ボランティア等との協働による街頭補導活動や非行少年を早期発見、少年のネット利用による被害防止の周知を徹底など、広報啓発活動を強化する。